

平成25年度パネル展(会期：平成25年4月23日(火)～7月15日(月・祝))



高麗の山城

—朝鮮半島に残る文化遺産—

Kyushu Historical Museum Exhibition guide

1 朝鮮半島の文化遺産と高麗の山城

玄界灘から一衣帯水の朝鮮半島には、現在でも多くの文化遺産があります。その中には官衙・寺院、そして山城を中心とする城郭など様々なものがあり、それらは北部九州の歴史とも密接なかかわりを持っていたとされています。例えば、三国時代の山城は、福岡県の大野城や熊本県の鞠智城の構造物と重なる部分もあり、当時の古代日本の歴史に影響を与えていたと考えられます。

そのような朝鮮半島の文化遺産の中で、半島各地に残る高麗時代の城郭もまた、日本、そして九州の歴史にかかわりを有しています。高麗の城郭には蒙古襲来の直前、蒙古に対して戦った人たちの城も含まれていました。この高麗の人々の抵抗によって、日本に対する襲来は遅れたとされており、その点でこうした高麗の城郭は、中世日本の歴史に大きな影響を与えた城郭といえます。

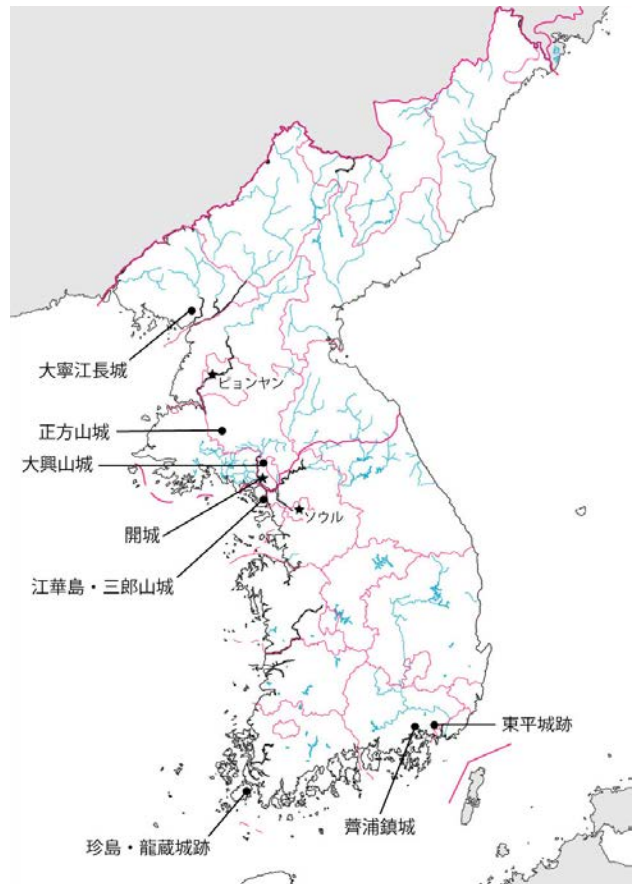
本展では、こうした日本と朝鮮半島の双方の歴史に影響を残した高麗の城郭について、山城を中心に、紹介していきます。



大興山城の城門

2 高麗の首都・開城

918年から1392年まで続いた高麗の首都は、主に朝鮮半島中西部の開城に置かれていました。現在の韓国の首都、ソウルからはやや北西の場所に当たります。遺構として今でも宮城の遺跡が良好な状態で残っています。開城は都城と呼ばれた城郭の一つで、羅城を形成しています。その外郭は周囲約36kmにわたって城壁で囲まれ、城壁の上部には狭間(銃眼)が認められます。また開城中心部から北へ約26kmのところには、北方の守りとして、大興山城が築られました。周囲約8kmの石築(石垣)に守られた山城で内部に観音寺があり、大理石製の観音菩薩像も安置されています。



高麗時代各地の山城位置図

3 日本とかかわり深い薺浦鎮城

慶尚南道の昌原市しょうげんにある薺浦さいぼは、中世日本と大きなつながりがある場所です。この地に築かれた薺浦鎮城さいぼちんじょうは、以前は周囲1377mの石築で囲まれていた城で、現在でも山頂と海岸部で一部に石築が残っています。この城はもともと、高麗時代末期の1390年、当時朝鮮半島などを襲撃していた倭寇の侵入を防ぐために築かれた城郭でした。

しかし高麗時代の後、朝鮮(李朝)時代に入ると、この薺浦の地は逆に日本からの船を迎え入れる地となります。1426年、この地は日本からの船舶の停泊地として認められた港である三浦さんぼの一つとなり、倭館が設置されました。この場所は、倭寇や貿易といった、中世における日本と朝鮮との様々な関係を見てきた地といえます。



海に臨む薺浦



江華島・三郎山城

4 蒙古と戦った三郎山城と龍蔵城

13世紀に入ると、後に元と称する蒙古の軍隊が、高麗にも侵入してきます。この事態に対して、高麗の人々は抵抗を試みます。その際に拠点としたのが、江華島こうかとうにあった三郎山城さんろうさんじょうや、全羅南道の珍島ちんとうに築城された龍蔵城りゅうざうじょうでした。

1231年に蒙古が侵入を始めると、高麗政府は首都を開城から江華島に移し、約40年間この地を臨時の首都としました。その江華島に築かれた山城が、三郎山城です。この城は石築の城壁が現存しており、特に丘陵頂上部の城壁が良く残っています。その細部を見ると、山から切り出した石材を堅固に積み上げ、そのところどころに水門や出入口が設けられていました。また、石築城壁の上部には銃眼にあたる狭間が設けられており、ここから弓矢などで外敵を迎撃したとされます。

こうして蒙古に対して抵抗を試みた高麗でしたが、侵入から20数年の後、高麗の政府は蒙古に降伏せざるを得なくなりました。しかし、高麗の政府が蒙古に従属した後も、高麗では蒙古支配に反発する三別抄さんべつしょうと呼ばれる人々が蜂起し、珍島に移って抵抗を続けました。その拠点が龍蔵城で、周囲を山城のように城壁が取り囲んでいた城です。発掘調査後に整備が行われ、現在では中枢部の建物群の基壇の様子を良く見ることができます。

三別抄は、最後は済州島を拠点に抵抗を続け、最終的に元と高麗政府に鎮圧されたのは、日本にとって一度目の蒙古襲来である文永の役の前年、1273年のことでした。

この抵抗のため、元は朝鮮半島を完全に掌握するのに長時間を要することとなり、その結果、日本に対する襲来も遅れることになったと考えられています。そのため、これら高麗の山城は、単に朝鮮半島の歴史のみならず、日本の歴史、そして福岡の歴史にも、大きな影響を与えた城郭というべきでしょう。

(執筆:名誉館長 西谷 正)

(編集:学芸調査室 渡部邦昭)

※展示・掲載の写真は、西谷正名誉館長の撮影によるものです。



編集 発行:平成25年4月23日

九州歴史資料館
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3
TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834
URL <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/>